



## BAUHAUS アームレール L型ハンド

「握る」「支える」を追求した形状のアームレール採用!

動画

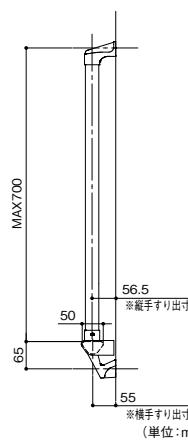
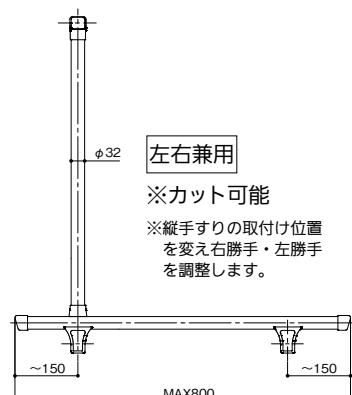


Webで詳細図面・納まり図をご覧頂けます。



介護保険 改修

- しっかり握れる縦手すり(丸棒)と、手のひらや肘で支える横手すり(アームレール)を組みあわせたL型ハンドです。
- 立ち座りと姿勢保持、両方をしっかりサポートします。



## マツ六 アームレール L型ハンド

商品コード	品番	価格
040-1919	BG-431SMO	1本 25,500円(税抜き)

- 材質: 手すり棒/天然木三層集成材、ブラケット/亜鉛合金・ABS樹脂・天然木●色:M:オーク
- 付属品: 手すり取付け用ねじ(⑨なべタッピンねじ4×20)4本、木下地用/取付けねじ(⑨なべタッピンねじ4×40)9本、コンクリート下地用/取付けねじ(⑨SUSなべタッピンねじ6×55)3本、ナイロンアンカー(S8×40)3本、平座金(SUS呼び径6外径12)1枚、(SUS呼び径6外径18)2枚、樹脂カバー固定ねじ(⑨丸皿タッピンねじ3.5×8)2本、ソケット取付け用ねじ(⑨なべタッピンねじ4×16)2本、ソケット用手すり固定ねじ(六角穴付き止めねじM5×4)2本、木製カバー固定ボルト(六角穴付き皿ボルトM4×10)1本、Dエンドキャップ固定ねじ(⑨スリムビス3.3×25)2本、六角棒スパナ(呼び2.5)1本
- 安全荷重: 60kgf(水平・鉛直共)
- 箱入数: 1本



※廊下用のアームレールはP.125～に掲載しております。

## 施工方法

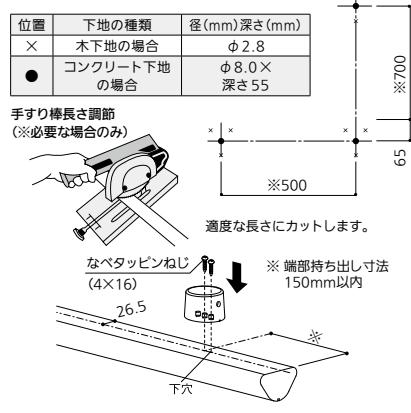
## BAUHAUS アームレール L型ハンドの施工

使用工具 電動ドリル、キリ、プラスドライバー

## 1 下地の確認と墨出し

(単位:mm)

- 下地が無い場合は事前に壁補強工事が必要になります。次に下地を参考し取付け位置に墨出しをしてください。その後手すりをあて、位置の確認をした後、下表から壁下地に合う取付け用の下穴を電動ドリルで開けてください。
- ※手すり長さを調整して使用する場合は、あらかじめ笠木をカットした後ブラケット取付けの上、墨出しを行ってください。



端部持ち出し寸法を決定の上、手すり棒にΦ2.8程度の下穴をあけ、付属のなべタッピンねじ(4×16)を使用して32面付ソケット固定します。

## 施工上のご注意

- タッピンねじは必ず製品付属品をご使用ください。
- タッピンねじの締込みはインパクトドライバー等の電気工具を使わないでください。力が強すぎる場合、ねじが回りすぎて効かなくなる場合があります。

## 1 2 3 4 共通

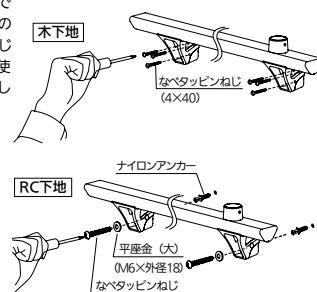
## ! お願い

ねじは最後までしっかりと締め、ガタツキの無いよう締込んでください。

## 2 ブラケットの固定

(単位:mm)

- 手すり棒を仮置きし、①で墨出した下穴位置に合わせ、付属のタッピンねじ(4×40)を使用し、壁に固定します。
- コンクリート下地(RC)の場合は、先にナイロンアンカーを下穴に差込んでから付属のタッピンねじ(6×55)を使用して固定します。

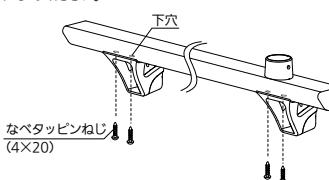


## 3 手すり棒の固定

(単位:mm)

- 手すり棒の位置を確認後、下穴をあけて、なべタッピンねじ(4×20)を使用しブラケットに固定します。

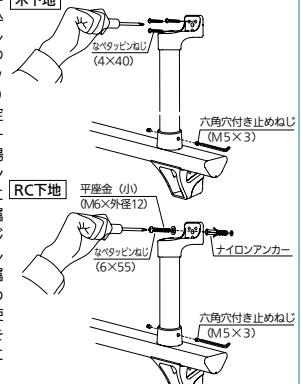
※この際、32面付ソケットの位置がブラケット横型の真上にくるようにしてください。



## 4 縦手すり棒の固定

(単位:mm)

- 縦手すり棒を32面付ソケットに差込み、①で墨出した下穴位置に合わせ、付属のなべタッピンねじ(4×40)を使用し、壁に固定します。コンクリート下地(RC)の場合は、先にナイロンアンカーを下穴に差込んでから付属のなべタッピンねじ(6×55)を使用して固定します。付属の六角穴付き止めねじ(M5×3)を使用し、縦手すり棒を32面付ソケットに固定します。



## 5 カバー・キャップの取付け

(単位:mm)

- 付属の六角穴付き皿ボルト(M4×10)を使用し、ブラケットカバーを固定します。



Dエンドキャップを接着剤(別途)で固定し、下穴を開けた後、付属のねじ(3.3×25)で固定してください。

## ! お願い

手すりが壁に確実に固定されていることを十分確認してから、カバーを取付けてください。六角棒スパナでカバーを止める際、クロスを傷つけないようにご注意ください。

## 施工上のご注意

- Dエンドキャップはエンドブラケットではありません。服の袖をひっかけないためのキャップです。

2 3 4 共通 ⚠ 施工上のご注意

- タッピンねじの締込みはインパクトドライバー等の電気工具を使わないでください。力が強すぎる場合、ねじが回りすぎて効かなくなる場合があります。